

令和4年度 前期 学校評価アンケート（分析及び対策）No.1

学校教育目標(重点的取組)	各項目		目指す姿	N0	対象	質問項目	全体	1年	2年	3年
Ⅰ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現	個別最適な学び	主体的・対話的で深い学び	一人一人が学習進度や能力、関心等に応じて、学習を進めていくことができる	1	教職員	生徒一人一人のやる気を向上させるための声かけや長所をほめるなどの「動機付け」を行っている	100%			
					生徒	自信につながるようなよいところを発見することができた	93%	94%	94%	93%
					保護者	お子さんは、自信を持って取り組んでいる	87%	94%	80%	86%
				2	教職員	生徒が目的を持ち、学習に取り組めるよう個に応じた指導を行っている	93%			
					生徒	目的に合った計画を立て実行できている	95%	94%	95%	94%
					保護者	お子さんは、目標を持って学習に取り組んでいる	86%	90%	83%	85%
				3	教職員	つまずきや困りを克服するための適切な支援を行っている	74%			
					生徒	授業でわからないところを、自分に合った方法で解決しようとしている	97%	99%	95%	96%
					保護者	お子さんは、学習でつまずきのあるところを、自分に合った方法で解決しようとしている	77%	77%	79%	74%
				4	教職員	授業では「めあて・振り返り」，「課題・まとめ」を提示しながら、生徒の主体性を育む授業を行っている	86%			
					生徒	授業では，1時間の「めあて」が達成できたかを振り返り，次の学習につなげようとしている	92%	90%	97%	89%
					生徒	授業では，解決したい課題を見つけ，解決に向け，見通しを持ち学習している	95%	95%	95%	95%
	協働的な学び		多様な人々と協働しながら，よりよい学びを生み出すことができる	5	教職員	生徒同士の異なる考え方を組み合わせ，よりよい学びを生み出すよう工夫している	93%			
					生徒	授業では，自分の考えを深めたり，広げたりするために，自分の意見を伝えたり，他者の話を聞いたりして交流している	94%	93%	93%	97%
					保護者	お子さんは，他者の話を聞き，自分の考えに生かすことができている	91%	93%	87%	92%
				6	教職員	生徒の主体性や協調性を育むため，多様な人々と協働する機会を設定している	80%			
					生徒	授業や学校行事等で多様な人々と協働することを通して，主体性や協調性が身についてきた	95%	95%	97%	93%
					保護者	お子さんは，主体性や協調性が身についてきた	91%	97%	87%	89%
	ICTの活用		ICT端末等を効果的に活用することができる	7	教職員	授業において，ICT端末等を活用する機会を積極的に設けている	87%			
					生徒	ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	97%	95%	98%	97%
					保護者	お子さんは，ICT端末等を積極的に活用して学習などに取り組んでいる	90%	93%	87%	89%
				8	教職員	生徒は，ICT端末を正しく使っている	100%			
					生徒	ICT端末を正しく使っている	98%	98%	98%	97%
					保護者	お子さんは，ICT端末を正しく使っている	93%	90%	96%	92%

【分析及び対策】

「1,個別最適な学び」については、生徒の評価は高く自分にあった学びを見出そうとしていることがうかがえる。しかし、保護者の評価はすべての項目において、生徒の評価に比べ5P以上下回っている。特に調整力（学びの工夫・改善）に係る質問③では、保護者・教職員の否定的な回答が20%を超えており生徒の段階で大人の見方に隔たりがある。達成した姿を共有できていないことに課題があると推察される。「2,協働的な学び」については、教職員の「多様な人々と協働する機会（本物に触れる機会）」が低いが計画的に実践している途中でであり問題はない。「協働的な学び」の有用性を実感できており、生徒が自ら「問い」を持つための工夫や「学ぶ意義」を見出すための工夫について学校研究を進めてきた成果といえる。「3,ICTの活用」については、ICTは必要に応じて活用する道具であることが定着してきたこともあり、高い水準を維持できていると考える。引き続き、教職員のスキル向上を目指し、公開することを前提とした実践事例の蓄積を校内研究に位置づけていく。モラル資質能力に係る質問⑧では、ICTを身近に活用する教職員・生徒の評価と保護者の評価に隔たりがある。約1割の不安を感じている保護者へICTの活用について発信をすることが望ましいと考える。今後は、校内研究3つの柱の推進を継続することで附属中における「個別最適な学び」の目指す姿を共有する取組を推進する。特に、「学びを紡ぐ5つの約束」を軸とした授業改善を続け、生徒が声を挙げやすい主体的な環境づくりである「共に創る授業」の実現を目指す。また、保護者に対しては、生徒の個別の様子が、家庭に伝わりにくいことを鑑み、家庭での会話を推進する取組や授業参観などを実施することを提案していく。

令和4年度 前期 学校評価アンケート（分析及び対策）No.2

学校教育目標(重点的取組)	各項目	目指す姿	N0	対象	質問項目	全体	1年	2年	3年
Ⅱ 自主的・主体的・創造的な取り組みを引き出す生徒会活動等, 魅力的な教育活動の展開	生徒会活動	自ら生徒会活動・学級活動等に取り組むことができる	1	教職員	生徒に学校教育目標達成のため, 「6期ステップ」(各期)の目標を意識して取り組ませている	87%			
				生徒	学校教育目標達成のため, 「6期ステップ」の目標を意識して取り組んでいる	92%	91%	94%	89%
			2	教職員	生徒は, 生徒会, 委員会, クラスの係活動に積極的に取り組んでいる	80%			
				生徒	生徒会, 委員会, クラスの係活動にリーダーシップやフォロワーシップを発揮して活動している	85%	79%	89%	86%
				保護者	お子さんは, 生徒会, 委員会, クラスの係活動に自主的に取り組んでいる	87%	87%	87%	86%
			3	教職員	生徒は, 学校行事(体育大会, 青垣祭等)に積極的に取り組んでいる	93%			
				生徒	学校行事(体育大会, 青垣祭等)に積極的に取り組んでいる	96%	95%	96%	97%
				保護者	お子さんは, 学校行事(体育大会, 青垣祭等)に積極的に取り組んでいる	90%	90%	96%	85%
			総合的な学習の時間	自ら課題を見付け, 自己の生き方を考えることができる	4	教職員	総合的な学習の時間では, 生徒に課題を設定する場を設けている	87%	
	生徒	総合的な学習の時間は, 自分たちで課題を設定して学習している				89%	87%	90%	89%
	5	教職員			調べたことを資料化や文章化させたり, 話の組み立てを工夫させたりしている	80%			
		生徒			自分たちで調べたことを, 資料や文章, 話の組み立てなどを工夫して発表できた	91%	83%	95%	96%

【分析及び対策】

質問①「6期ステップ」の取組については昨年度に比べ、評価の数値は良くなっている。しかし、この項目で肯定的な回答をした生徒の割合は92%に対し、教職員の割合は87%であることから、生徒と教職員との意識に差があることがうかがえる。活動内容について、教職員の共通理解を徹底するとともに、生徒会活動の各期の振り返りと次期の目標設定のサイクルを継続し、定着させていくことが求められる。また、定期的を実施している生徒会委員会を軸に、各学年で活動に差が出ないように意思疎通を図りながら取組を推進していく。質問②「生徒会、委員会、クラスの諸活動」の項目については、数値が80%台である。生徒会活動をより活性化、充実させるために、組織的な生徒会活動(執行部を中心とした各委員会との関わり)を後期は行っていきたい。質問③「学校行事(体育大会)」については、教職員・生徒・保護者の肯定的評価が90%を超えている。学年が上がるにつれて、数値も上昇しており、最高学年としての思いが積極性に繋がっていると思われる。11月には青垣祭が控えているので、リーダーを中心にフォロワーの意識も高めながら、日常的な活動が大きな行事に結び付くような取組を行ってきたい。質問④「総合的な学習の時間」については、「課題を設定する場」の数値が教職員・生徒ともに80%台である。今後、生徒に課題を設定させる場において、問題意識を持たせるための身近な事柄やよりイメージしやすいアプローチを取り入れた授業作りを行ってきたい。また、質問⑤「調べたことを工夫する」項目については、教職員と生徒間に評価の差異があり、今後活動の後の振り返りシート等を活用しながら、教職員と生徒とで共有し、再度目的を検証していきたい。

令和4年度 前期 学校評価アンケート（分析及び対策）No.3

学校教育目標(重点的取組)	各項目	目指す姿	N0	対象	質問項目	全体	1年	2年	3年
Ⅲ 心と命を守る日々の教育活動の充実と組織的な推進	生活指導	基本的生活習慣を身につけ、自ら考えて行動することができる	1	教職員	生徒は、規則正しい生活を送ることができている	80%			
				生徒	規則正しい生活を送ることができている	83%	86%	79%	82%
				保護者	お子さんは、規則正しい生活を送ることができている	83%	87%	87%	74%
			2	教職員	生徒は、進んであいさつすることができている	66%			
				生徒	自分から進んであいさつすることができている	95%	95%	92%	96%
				保護者	お子さんは、進んであいさつすることができている	90%	87%	95%	89%
			3	教職員	生徒は、進んで清掃に取り組んでいる	80%			
				生徒	自分から進んで清掃に取り組んでいる	98%	97%	98%	98%
			心と命の教育	自分も他の人も大切に、仲間同士で支え合えることができる	4	教職員	生徒は、自尊感情が高いと思う	80%	
	生徒	自分にはよいところがあると思う				80%	80%	79%	82%
	保護者	お子さんの自尊感情は高い方だと思う				87%	87%	84%	89%
	5	教職員			生徒の悩みや相談に親身に応じている	86%			
		生徒			先生は、あなたの悩みや相談に親身に応じてくれる	93%	94%	91%	91%
		保護者			先生は、お子さんの悩みや相談に親身に応じてくれる	84%	83%	84%	84%
	6	教職員			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	87%			
		生徒			学級は、他の人の思いや考えを尊重する雰囲気になっている	91%	88%	92%	94%
		保護者			お子さんの学級は、生徒の思いや考えを尊重する雰囲気がある	95%	93%	96%	96%
	7	教職員			いじめのない学校・学級づくりに努めることができている	100%			
		生徒			いじめのない学校・学級づくりができていると感じる	96%	94%	96%	97%
		保護者			いじめのない学校・学級づくりができていると感じる	94%	94%	87%	100%
	8	生徒			授業以外で部活動や家庭等での体力づくりができている	79%	87%	80%	70%
		保護者			お子さんは部活動や家庭等で体力づくりをしている	69%	70%	67%	70%

【分析及び対策】

質問①についてはどの学年も２割近く否定的な回答になっている。中学校になり学習時間や習い事にかかる時間が増え、睡眠時間が減っている傾向がうかがえる。また、少数ではあるがゲームやインターネット依存により睡眠時間が少ないと考えられる。手帳などを活用し、家庭と連携する必要がある。質問②については設問に「進んで」という言葉を付け足したため教職員の数値が低下したと考えられる。とはいえ生徒・保護者の肯定的な割合は低くないので三者間のギャップをなくす必要がある。生徒会を通して、あいさつの必要性や目的などを考えさせる取組を仕掛け、教職員と生徒間でどのような「あいさつ」が相応しいかを考える必要がある。質問③についても質問②と同様のことがいえる。質問④については、各学年２割程度の生徒は自尊感情が低い傾向にある。ただし、本校は県のレベルで考えると高い傾向にある。肯定的な回答をしている生徒も正しい自己理解ができるようにしていかなければいけない。質問⑤については良好的な数値ではあるが、教職員の数値が低いことが気になる。忙しい中ではあるが、手帳や日頃の様子から変化を見取り、適宜声かけをするなど日々の生徒とかかわりを深める必要がある。質問⑥および質問⑦については例年と比べても良好な数値だといえる。質問⑥については今年度から取り組んでいる人間関係プログラムを継続して行い、よりよい関係を構築できるようにしていきたい。質問⑦ではすべての回答者が１００％にならなければいけない内容であり、いじめを絶対に許さないという姿勢をしっかりと教職員がみせる必要がある。質問⑧については本校の長年の課題でもあり、体育科や養護教諭とともに対策を考え改善に向け取り組んでいく。

令和4年度 前期学校評価アンケート(自由記述)

☐肯定的内容と、☐意見・要望の一部回答を掲載しています。

【生徒】

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現で、班での交流が増えたので、全体的に活発になり挙手の固定化が改善された。

○中学校に慣れてきて学校生活が楽しくなっているので良かった。これからもいい学級づくりができるようにしていきたい。

○前期を通して学習委員でみんなをまとめていくことができ、その取り組みでクラスが変わった。

☐学校内のいじめ対策を厳重に強化してほしい。

⇒日頃の教育活動の取組として、道徳の授業では豊かな心の育成を。また、人間関係づくりプログラムを定期的 to 実施し、生徒同士のつながりを深められるよう努めていきます。さらに、アンケートや個人面談を計画的に実施するとともに、生徒が相談しやすい雰囲気づくりに努めていきます。気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

☐教科によっては班活動が少ないのもっと多くしてほしい。

⇒班活動の主旨の説明と授業のねらいに即して展開を決めていくことについての説明を行っていきます。また、生徒会学習委員会の「学びを紡ぐ5つの約束」を紹介し、今後、主体的に学習に取り組めるような内容とリンクさせながら、各教科で効果的な班活動を推進していきます。

☐カジュアルデーを増やしてください。

⇒前期は6月に第1回、そして9月16日(金)に第2回の実施を予定しています。後期については、生徒会生活委員会を中心に定期的 to 実施することも視野に入れながら、議論していきます。

【保護者】

○学校は感染症対策に力を入れてくれており、安心して学校に登校させることが出来ます。私たちも、気をつけようという意識が定着してきました。学習面も、先生方が良く相談に乗ってくれと聞きます。いつもありがとうございます。家庭でも、自主性を大切に支援して参ります。これからもよろしくお願い致します。

○いつもお世話になっています。コロナ感染が日に日に増えていく中で敏速に対応して下さい、毎日休まず登校できたこと、今日前期授業終了日を無事に迎えられることに感謝しています。工夫を凝らした授業参観に参加できたことがたかたかです。ありがとうございました。

○学校が楽しい!!と毎日のように言っています。大変ありがたいことだと、先生方やお友達に感謝しております。

☐コロナ禍で学校行事に参加する機会が少なく、学年内、学級内の雰囲気はよくわかりません。

⇒前期の6月に保護者授業参観を1週間開催しました。人数を制限しての開催になりましたが、多数のご参観をいただいたことに感謝いたします。このような状況下で、日頃お子さんの授業等の様子をなかなか見る機会が少ないと思います。今後もコロナの感染状況を見極め、感染症対策を十分講じながら、保護者の方々には出来るだけ多く学校の様子を見て頂く機会をと考えております。また、日頃の学校での様子を学校のHPや学校・学年通信等でもお知らせしておりますので、是非ご覧ください。

☐中学校生活のはじめは友人関係を一から構築していけるか、親子共々とても不安に感じていましたが、先生方の適切なお声がけや、周囲の生徒さんの優しさによって今は不安なく毎日を過ごせています。学習面はまだまだ不慣れな所があると感じます。もし可能であれば自主学習の取り組みをどのようにしているか共有できる機会があると、家庭でもよりサポートしやすいです。今後とも宜しくお願いいたします。

⇒前期は学活等でノートの内容の取組を指導しました。ノート提出後はコメント等を書き、勉強の仕方のアドバイスをしています。今後、良い内容は学級内に掲示したり通信等で紹介したりし、特に考査前は生徒に共有していきたいと考えています。